島の宝再発見

自然環境と地域の文化を活かす取り組み

遠藤 直子

淡路島

沿島

2km

南あわじ市

沼島100年計画~SDGs実現委員会~

団体名

事業名

沼島の宝をみつけ・みがき・はぐくむプロジェクト

周遊山道の再整備に向けて

(面積二・七三平方キロメートル、周囲一〇) に位置する兵庫県最南端の小さな島 沼島は淡路島の南四・六キロメート

の南部では、

縄文時代の土器片も発見

話に登場するイザナギノミコトとイザ ○メートルの上立神岩をはじめとする 域に指定され、太平洋側には高さ約三 ほぼ全島が瀬戸内海国立公園の特別地 三キロメートル)です。 奇岩が見られます。 古事記の国生み神 集落地域を除く

ナミノミコトが最初に作り出した「お

神社には、 山とされるおのころ山にあるおのころ のころ島」の最有力候補とされ、 二神が祀られています。島 神体

道が整備され、 されています。 二〇年ほど前に島を一周する周遊 明治時代に戦争や伝染

Ш

様を「沼島八十八カ所霊場巡り」とし 病などで亡くなった方々の慰霊のため て巡れるようになりました。また、 に島内の八十八カ所に祀られたお地蔵 つて遠足や運動会が行なわれてい た か

> 望でき、 年頃は、 の浜の美しい海に感動したことを覚え ました。 「古水の浜」へもアクセスしやすくなり 島 私が沼島に移住した平成二七 山道を抜けた先に見えた古水 の山 のあちこちから海を眺

ています。 全体に雑木や蔦が鬱蒼と生い茂り、 ら、管理が行き届かなくなりました。 八四人、うち約半数が六五歳以上)など や人口減少 手入れを担ってきた地域住民の高齢化 しかし、 山道の整備から年数が経ち (令和五年三月末時点で人口三

感動

という声

が寄せられました。

しかった」「懐かしい記憶が蘇ってきて

入れた方などから、「昔を思い

出

して楽

掃

を

点在するお地蔵さんの位置

の確認と清

のため入山

の予定を変更し、

住宅地

月のワークショ

ップは、

雨模様

シ

 \exists

ッ 島 した

(後述)

に備えて事前に各所

0

手入れすることができました。

八十 フ

八 カ所

に

つ

εV

ては、

ワーク

八十 八カ所を舞台とした

調査と草刈りを行ないました。

何度

クショッ

古水の浜 八十八カ所巡 へ歩い 7 ワー

ŋ

Ú

となり、

ノシシも出現するため、

が くのも危険な状態で、 :減ったことでますます山が荒れ 山 [歩きをする人

< 沼島1 という悪循環に陥りました。 00年計 画 ~SDGs 実現委 . T

員会~」は子育て世代を中心に島 の有志が集まった団体で、 百年後も創 在住

難なため、

漁

船を使って海

から運

搬

L

造的で豊かな島暮らしの実現を目

て令和三年より活動

しています。

活動、 や島 十八カ所と古 の 回私たちは、 賑わいを取り戻すべく、 南あわじ市立 水の浜の調査および かつての美しい 沼島中学校の生徒 沼 光景

環境を学ぶ「沼島を知る活動」 たちが実施している島の歴史や文化 10 0年計 画版 沼島を知る活

した。 よびそれらの活動を報告するニュ はぐく 合わせた|沼島の宝をみつ ター t ファロ 島づくり通 クト 信 に取り組みま の発行を組 け・みが に倣 1 ス み

> 令和四年五月、「古水の浜クリー ンア

> > 草むらに隠れて行方不明となってい

た

元

の

方も同行してくださるようになり

通ってい

るうちに沼

島

0

山 . に詳

61

地 か

お地蔵さんを何体も発見することが

ップ大作戦」 山道から大量のゴミを運ぶ (海岸清掃) を行な の € √ は ま L 困

多々ありましたが、 ました。 船を出してくださった漁師 初めての試みのため不安も 沼島出張所の職 さ 員

げで、 の方々、 内外からの参加者三五名の協力のおか ンテナい ん達、リサイクルセンターの皆さん、 時間強で四○袋分のゴミとコ つ ぱいの缶 ・ビンを集めるこ 島

島へ島外から家族を連れて参加され とができました。 数十年ぶりに古水の浜に足を踏み 幼年期を過ごした沼 た

> 島内外からの参加者二○名と一緒 きました。 六月の草刈りワークショ ップでは

に

も立ち寄ってくれるようになりまし 違えるほど明るくなった結果、 していたあずまやに光と風が通り、 草刈りを行ない あずまや周辺のお地蔵さんの手入れ ました。 薄暗く鬱蒼 観光 見 لح

近くに住んでいながら八十八カ 名の参加者たちと行ない 、まし 所

咲く花をお供えするなど楽しみなが 民も多く、 のお地蔵さんの存在を初め 参加 した子ども達は道 て知った住



クショップ参加

なかった二カ所のお地蔵さんを発見す 周遊できた達成感をみんなで分かち合 ることもできました。 いました。 この際、 位置が知られて 61

元

に、

有志で豆をお供えしながら八十八

朝八時から一

三時

て教えていただいたことをきっ

かけ

わ れてい

た節分の八十八カ所巡りにつ 地域の方からかつて行な

二月には、

頃までかかりましたが、 カ所を巡りました。

八十八カ所を

してとりまとめました。QRコードを のなかで「沼島八十八ヶ所マップ」と これらの調査結果を「島づくり通信

沼島汽船乗り場に五○部配置したとこ を見ることができます。 読み込むと地図で八十八カ所の位置や コース、 寺の名前やお地 観光客向けに 蔵さんの写真

近は山歩きを楽し 遽五○○部ほどを増刷して適宜補給 ろ できるようにしました。その成果か、最 すぐに無くなってしまったため急 む観光客の姿を多く が

沼島の伝統や自然を次世代へ

見かけます。

地域の方々が喜んでくれました。

観光ボランティアガイドグルー は 1 0 郷土史を学ぶ住民有志が設立した 年計 画 版 沼 島を知る活 ブ 動 ぬ で

> ことができたのは大きな収穫でした。 さまざまな講座を開催しました。 ぼこの会」や沼島伝統文化保存会会長、 の伝統や文化、 地域おこし協力隊員らを講師に迎え、 地域の方々の豊かな知識に触れ 歴史、 環境などにつ 沼 れ る ίĮ

ぶりに賑やかな祭りになって嬉し 子ども達が大勢参加したことで「久し た例祭でしたが、 ナの影響もあって参加者が シとカレンダーを作成しました。 に行なわれている例祭を周知するチラ を作ることを目的に、 てきた伝統や風習を知ってもらう機会 また、子どもたちに沼島で受け継が この取り組みにより 島内で季節ごと 微減し T コ 13 П

計画では、 は行なってきましたが継続的なプロ 間計 つひとつ実行していくことで、 クトに着手するのは 発足してまだ二年目の沼 画を基にスケジュ これまで単発的なイベント 初めてでした。 1 島 ル を組ん $\begin{array}{c} 1 \\ 0 \\ 0 \end{array}$ 興味 で 在

離島人材育成基金助成事業 運営委員より

離島振興に係わる仕事に就いて からほぼ四半世紀が経っております が、本事業の視察・意見交換に際 し、初めて沼島を訪問しました。淡 路島から航路わずか10分で行ける 場所に、これほど素晴らしい島があ ったとは思いもよりませんでした。適 度なトレッキングが可能な「山」と、 潮風を十分に感じられる 「海」とい う離島ならではのテラピー(癒し)環 境の中に、「国生み伝説 | がしっかり と息づいていることを実感すること ができました。また、中世の武将・梶 原景時と沼島水軍にまつわる伝説 めいた言い伝えに触れることができ たことも収穫でした。

一方、近距離・短時間で行けるこ とが、まさに両刃の剣であるというこ とも否定できない事実です。これか ら沼島住民の総力を挙げて、工夫を 積み重ねて、日本の各地や海外から 淡路島を訪れる観光客が必ず立ち 寄らざるを得ないスポットに築き上 げていくことが大切ではないかと思 います。その先導役としての沼島100 年計画の活動に期待しています。 (運営委員・日本離島センター専務理事 小島 愛之助)

遠藤 直子 (えんどう なおこ)

昭和43年新潟県生まれ。「Luc-Lumière et couleur」 を主宰し、翻訳や個人セッション(カウンセリング)を行 なう。長年東京に住んでいたが、東日本大震災を機に 平成23年に大阪へ。その後、淡路島を経由して同27 年に家族で沼島に移住。令和3年に仲間と「沼島100 年計画~SDGs実現委員会~|を創設。

今後 を持 浜 見開催 思い 像以 クリ 見 を再生するため は 回 か ĩ [の活動 ĺ 上 た破り 沼島 なう予定です。 0 成 実際に八十八 でを参加 損 八 果を上げることができた + ブ 大作戦 た花立 八 0) カ 者 ヮ 所 0 また、 も継続 声 カ所を巡 0 (花を生ける仏 クシ 手 を踏り 古 ま れ ます ッ 0

つ

て参加し

てくださる方も増

え

者に

ーゴミに

加えてシーグラスや

きたいと考えています。

ることで、 どを通 活 島 島 殼 を拾 0 7 か 外 将 山 1 自 と海 た自 然素材 来 してより の つ ・ます。 親子 ても 的 島 に に 3 体験 を活 を中 は 親 0 沼 自 こうした活動 舆 プ 然環境 んでもらう機会を を 0 島 心を深め か 心に多くの方々に したも それ 場 開催する予定です 0 づ 山 死を保 と らを使っ ても 海 0 づくり を 0 全 を 魅 6 万 維 た 持 た 沼



集落散策では、地域の方々の豊かな知識に触れるこ とができた。